

令和7年度 法人事業計画・理事長挨拶



すてっぷ演劇公演「入れかわり大冒険」 練馬区立光が丘障害者地域生活支援センターすてっぷ

トーク 萌ゆる新緑、希望の門出

春風が頬を撫で、木々の緑が目に見え、鮮やかな4月を今年も迎えました。新たな年度の始まりは、私たちに新鮮な気持ちと、未来への希望を与えてくれます。街のあちらこちらで、入学式や入社式を終えたばかりの、希望に満ちた若者たちの笑顔が輝いています。私たち武蔵野会でも、小さな子どもから特別支援学校を卒業したばかりのピカピカの新社会人など、沢山の方に入所していただきました。そして、利用者、職員ともに新しい仲間を迎え入れて新しい年度を迎えることができました。

4月は、まさに「新しいスタート」という言葉が最も似合う季節です。学校を卒業し、社会人として新たな一歩を踏み出す人々。部署異動や転勤で、新しい環境に身を置く人々。あるいは、心機一転、新たな目標に向かって歩み始める人々。それぞれの場所で、それぞれの新しい物語が始まります。

新しいスタートには、期待とともに、少なからず不安もつきものです。慣れない環境、初めての仕事、未知の人間関係。壁にぶつかることもあるかもしれません。しかし、新しいスタートは、私たちを成長させるための大切な機会です。失敗を恐れず、積極的に行動することで、新たな知識やスキルを習得し、これまで知らなかった自分自身を発見することができるのではないのでしょうか。少し疲れれば少し休み、また前を向けば、そこにはきっと、前に進む勇氣、支えとなる人々の温かさに勇氣づけられて、私たちをまた、前へと進ませてくれる、そんな雰囲気の中でお互いに成長していきたいものです。

社会福祉法人武蔵野会 理事長 山田 貴美

法人事業所重点課題（概要）

八王子市心身障害者 福祉センター

「建物の老朽化」、「来所困難」が喫緊の大きな課題となっているため、設置者である八王子市と密に連携し、対策を検討していきま

す。利用率は上昇傾向にあります。が、障害のある人の事業への参加やボランティア養成事業の受講者の減少が見られることから、当センターの業務の柱である各種事業に関する広報、実施形態を改めて見直します。また、地域コミュニティへ積極的に働きかけ、双方を理解し、協力し合う関係性を構築していきます。

練馬区立大泉町福祉園

利用者への「声かけの質を上げる」を重点課題の一つとします。当事業所で取り組んでいるスタンダード支援（より良い支援に向けて全職員が全利用者に行なうこと）のセルフチェックで「声かけの質」の結果が全員B以上（80%以上の場面で適切にできた）になることを具体的指標とします。実際の支援場面を想定したロール

プレイを行ない、互いにフィードバックすることで自身の言動を修正するトレーニングを定期的に行ないます

練馬福祉園

最重度の知的障害があり、自ら意思表示が難しい利用者の意思を丁寧に確認しながら、利用者主体の支援を行ない日常生活・社会生活における意思決定支援を行っています。普段の支援場面でのコミュニケーション支援を大切に、具体的な行動や表情などの記録を重ね、それぞれの利用者に合った意思確認を多職種連携で取り組んでいます。

八王子生活実習所 リンクス柵田

「活動の充実（自己選択・自己決定）」と業務改善」を重点課題とし、「利用したい、利用を続けたい」「働きたい、働き続けたい」と思ってもらえる事業所作りの向上に取り組めます。間接業務と活動の融合（利用者参画）により、活動の充実と業務負担軽減につな

て取り組む時間を増やします。2年後に予定している八王子生活実習所の建て替えに向けて、ポジティブに一九となる組織を目指します。

世田谷区立 駒沢生活実習所

利用者ニーズへの対応強化と実践スキルの向上を一層図るために、適切な利用者支援集団の再編成と利用者ケアマネジメントプロセスの計画的な実施及び管理を徹底します。また、情報管理体制の強化を図り、利用者と職員が安心・安全・満足できる施設環境を整えます。昨年度の新任職員採用を踏まえ、引き続き人材育成を進めていくために、持続可能で標準的な人材育成プログラムの作成を目指します。

世田谷区立 世田谷福祉作業所

就労継続支援B型、就労移行、生活介護の多機能型事業所のため、それぞれの部門の業務について職員が情報共有し、コミュニケーションを活性化させ協働する風土づくりを重点課題の一つとして取り組みます。事業方針や支援の方向性等認識のズレをなくし、開放的コミュニケーションによる職員の相互理解・相互指摘をすすめ、良質な支援、適切なサービス提供をするための協体制度を強化します。

白鳥福祉館

「心理的安全性の高い組織作り」が今年度の最重要課題です。利用者の権利や尊厳の保持、災害や感染症に強い施設作り、人材育成や運営のための財源確保も大切な課題ではありますが、それらは利用者にとっても、職員にとっても心理的安全性の高い組織があつてこそ叶えられるものです。語り合い、議論を深め、双方向でのコミュニケーションを豊かにし、強い組織作りの礎を構築します。

生活支援センター すてつぷ

生活支援センターすてつぷの事業重点課題は「計画相談支援における意思決定支援の理解」です。サービス等利用計画は、本人の意思による希望する地域生活の実現が目標です。基幹相談支援センターとして、意思決定支援の趣旨や内容を全職員が十分に理解したうえで、計画を作成する相談支援専門員や介護支援専門員、サービス提供事業者、そして支援に関わる様々な関係者と共有できるように説明スキルの向上に取り組めます。

東堀切くすのき園

職員の多くが課題と考えるトイレの改修について重点課題として取り組みます。改修工事に向け、

創出し、「はたらく」を通じた絆社会の実現を目指します。

北町福祉作業所

北町福祉作業所では昨年末に利用者・職員・地域との約束事、信条としてクレドカードを作成しました。作成からまだ日が経っておらず、クレドの認識、浸透が今一つの状態です。そのため、今年度はクレドの活用、共通認識を高めるため、施設の重点課題に取り上げました。全体での定期的な見直し、確認、改訂を行い、クレドを意識し、日々の支援に取り入れていきます。

武蔵野児童学園

子どもであっても社会の一構成員として対等な立場で子どもと接することが「基本的人權を護る」ことに繋がる。しかし現実的には大人と子どもの関係において護る側（大人）と護られる側（子ども）になりがちであり、そこには上下関係が生まれてしまうことが多い。いかに子どもの気持ちや行動を受け入れ、そこに「寄り添える」か、相手の立場を理解し精神的な支援をする支援者、職員集団を目指します。

さくら学園

さくら学園では利用者の平均年齢が63歳となり医療的な支援を要する入院治療も多くなってい

西水元あやめ園

西水元あやめ園では、重点課題として「利用者の人格の尊重」を最も大切にしています。この想いが土台になれば、他のどの取り組みも本当の意味で実を結ばないと考えています。職員の言葉やふるまいは、利用者の皆様の毎日に深く関わるものです。私たちは日々、自分の関わりを見つめ直しながら、より丁寧で心のこもった支援を心掛けます。これからも、優しさあふれる施設を目指して歩んでまいります。

小平福祉園

小平福祉園の重点課題は「人格の尊重」です。職員アンケートで、声のかけ方や利用者とのコミュニケーション方法に配慮が欠けているので改善したいという提案が複数あったため、基本的なことから園全体で取り組みます。具体的な場面を想定したロールプレイ

世田谷区立 九品仏生活実習所

利用者主体の支援構築を目指します。職員主体の考え方や、根拠が明確でない支援を止め、利用者の気持ちや要望を引き出せるよう取り組みます。定期的に支援の見直しや、利用者への接し方について話し合いを行います。1年間で全ての利用者について話し合い、全体での共有を行っていきます。

きね川福祉作業所

職員を採用し、きね川福祉作業所の職員に育成し、利用者、家族が高齢化する中で、各自の思いに寄り添い、関係機関と連携しながら希望する目標に近づけるように支援していきます。

希望の里

希望の里では、利用者に働く場の提供や出来る限り自立した日常生活が送れるよう支援しています。今年度の重点課題は、利用者の働く権利の保障と工賃アップを目指します。目標工賃向上計画に基づき、月平均1万円以上を目指すため今までの作業量確保と

大島恵の園 第2大島恵の園

今年度の重点課題は両園合同で研修体制を作ることです。それぞれが学んだことを発表し合い、同じテーマで話し合ったり、何かを決めたり、改善したりする取り組みを、両園合同で行います。今まで気付かなかった違いを知り、考えることを通して、より良い支援につながっていきます。研修体制の整備だけでなく、利用者やご家族、後見人の皆様が気持ち良く利用していただける施設作りを、両園で連携し大島地区としてすすめてまいります。

ジョブ・サポート・プラザちよだ

お菓子工房の業務委託から自主生産への移行を目指します。自主生産にすることで、自社ブランドとして地域や顧客のニーズに合わせた商品開発を行い、付加価値を高めることで、地域での存在感を向上させます。その中で、利用者が商品作りに携わり、販売を通じて地域との関わりから、やりがいと満足感、自信、地域拠点へとつなげ、地域との交流の機会を

す。嚙下状態や歩行状態も年を重ねることで課題となり、骨折事故も増えています。元気に楽しく過ごしていただくために、日々の健康観察と地域医療機関との連携強化が重要です。骨折事故は、看護師、理学療法士、管理栄養士との多職種協働で前年度比50%減を目標に取り組んでいきます。

リアン文京

利用者1人ひとりに寄り添った、質の高い意思決定支援に取り組めます。施設入所支援では、令和8年度から地域生活への移行に関する意向、施設外日中活動系サービス利用の意向の確認が義務化となります。どのような生活を、どこで誰と送りたいか、職員が日々の生活に寄り添い、丁寧に意思確認をする姿勢をもち、専門性を高めていきます。また、希望する地域生活が選択できるよう、地域との繋がりを深めていきたいと思っています。

練馬区立光が丘福祉園

9つの事業重点課題と5つの支援重点課題を職員皆で設定、「オール光が丘、ワンチーム」のスローガンの下、各々の役割の中で取り組むこととしました。主立った内容としては、①利用者本位のDX化等を通じた活動プログラムと意思決定支援、外出や外活動の拡充を図り、利用者の社会参加とQOLを高めること、②職員の

接遇マナー向上や支援手順の統一、職員間協働等で利用者の安全安心満足を高め組織の活性化を図ること、③地域・関係機関との交流を推進、大規模災害時の体制整備や事業継続を図ることなどです。

八王子福祉作業所

就労継続B型・生活介護の重点課題は、目標工賃の達成です。受注作業の新規企業開拓と関係強化。自主生産作業に関しては新たな生産を開発。「はたらくことをあきらめない」を掲げ、個々の強みを生かした作業種を増やし、工賃の向上を目指したいと考えています。就労移行も「働くことを諦めない」を目指し、安定した就職に向けて企業とのマッチングを大切に、定着率を維持していきたいと思っています。

世田谷区立

烏山福祉作業所

利用者の役割活動の充実については、希望者に対して役割活動の提供を倍増します。災害時緊急時の連絡体制の見直しについては、家族会の合意を得た上でより効率的な通信手段の確保を図ります。予算の適正執行については、設備投資による作業収入の増加を目指します。ICTの導入と活用については、記録・情報共有の効率化による職員の業務負担軽減を図ります。地域連携・地域公益活動の取り組みについては、第4

ニューラウンジ

提携社会福祉法人サミット開催

本年2月22日と23日の両日、日本福祉大学(名古屋キャンパス)で第18回提携社会福祉法人サミットが開催され、武蔵野会からは理事長をはじめとする多くの法人職員が参加(一部オンライン)しました。22日に行われた政策動向勉強会では、「地域共生社会の実現に向けて」身寄りのない高齢者等が抱える課題への対応」をテーマに現代社会で増加の一途をたどる単身高齢者の孤立・孤独について考えました。

23日は、災害に強い地域包括ケアの深化・推進に向けたBCPの見直しとBCMの実践について学びました。リアン文京の実践が報告され、参考となる知見が得られました。その他、別日に開催された分科会では、研修部会で法人の研修委員がシンポジストとして参加、研究部会では東堀切くすのき園の実践が報告されるなど、今年度は武蔵野会の活躍がひととき目立つサミットとなりました。



原田学長(左)と野川氏(名古屋社会福祉協議会)の対談
～第4分科会(福祉教育プロジェクト)から

とっておきの音楽祭 烏山福祉作業所

令和7年4月5日から2日間にわたり「第4回とっておきの音楽祭東京世田谷からすやま」を開催しました。烏山福祉作業所は、第1回目から実行委員として携わり、烏山地域の児童や障害者団体、地域の方々と企画・運営にあたってきました。「とっておきの音楽祭」は、障害のある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、音楽のチカラで「心のバリアフリー」を目指す音楽祭です。2001年に仙台で開催した第1回より出演者の演奏、歌声、ダンスなど様々な「チカラ」を表現できるステージを全国各地で開催し、継続しています。

烏山福祉作業所も利用者の文化芸術活動の一つとしてBBB(ブ

回とっておきの音楽祭を開催します。人材育成については、キャリアデザインシートを活用した職員の育成・スキル向上を目指します。

千代田区立障害者支援センターえみふる

地域共生の拠点作りとして、昨年度から区内にちよだんごカフェをオープンして1年が経過。「人・地域・社会」を繋げる拠点として区内の認知度を高めつつ、様々な要因で社会との繋がりが希薄となっている方々との接点作りや就労体験の場としてのコミュニティカフェを目指しています。カフェ機能が本来持つ「地域と繋がる場」を活かし、障害の有無にとられず、サポートを必要とする方が自然と横断的に福祉へ繋がる場所として作り上げていきます。

すぎな愛育園

最重要課題として、「利用しやすい施設づくり」に取り組みます。すぎな愛育園が開設した当時と比べて両親が共に就労しているケースが増えている現在、従来の療育時間では通園が難しく利用を諦めているご家族がいらつしやいます。そのような現状を踏まえ、社会情勢や利用ニーズの変化に合わせたサービス提供の見直しを行い、すぎな愛育園を必要とするお子さんや家族が利用しやすい施設づくりを進めていきます。



武蔵野児童学園

学園では3月に退園生を送り出す「壮行会」があります。今回は、小さい頃から入所していた児童が1人。壮行会後のお祝いの食事は、退園生のスライドショーを流します。懐かしい映像に「大きくなつたね」と思い出話に花が咲きます。今後の活躍を願っています。

さくら学園

さくら学園ではリハビリを積極的に取り入れています。多くの皆さんが年齢を重ね、転び易く、足腰の痛みを訴えるようになりました。転倒防止の姿勢矯正や筋力をつける効果的な運動、痛み軽減対策のマッサージやストレッチを行っています。

すぎな愛育園

桜満開の暖かな日、すぎな愛育園の入園式が行われました。春休みで静まり返っていた園舎に子ども達の元気な声が響き渡り活気が戻りました。春夏秋冬、さまざまな経験をしながらか元気に逞しく育つて欲しいなと思います。

東堀切くすのき園

4月1日入所式が行われました。式の終盤、喜びと不安が入りまじる4名のニューフェイスに向けて、先輩利用者による太鼓演奏をプレゼント。さらには、ボランティアさんによる演奏もあつて、にぎやかな門出となりました。

駒沢生活実習所

敷地の一角の桜が今年も満開になりました。施設2階のベランダは桜に包まれ、利用者はお花見を満喫しています。地域の方も足を止めて写真を撮ったり、親子で記念写真を撮って楽しんでいきます。利用者と地域の方が季節を共有する大切な桜です。

大泉町福祉園

令和7年度から練馬区立大泉町福祉園の施設長を拝命しました。大関智です。5年前に4年間お世話になった事業所であり、大変光栄です。どうかよろしくお願いいたします。大規模改修に向け、少しずつ準備を進めていきます。

九品仏生活実習所

地域との交流を目的に、毎年この時期にさくら草のプランターを配布しています。今年はさくら草が少なかったため、育てていたチュウリップを織り交ぜて地域の方に配りました。

八王子生活実習所

今年も正門の桜が満開になりました。新しく5名の方をお迎えし、リンクス柵田と合同で入所式を行いました。手作りのくす玉でお祝いし、たくさんの笑顔と紙吹雪に包まれた心温まる入所式となりました。

お知らせコーナー

4月

1日(火) 新入園者歓迎会 (光が丘福祉園)
 5日(土)～6日(日) とっておきの音楽祭 (烏山福祉作業所)
 7日(月) 入園式 (すぎな愛育園)
 13日(日) 東立石桜まつり (きね川福祉作業所)
 14日(月) あやめカフェ (西水元あやめ園)

5月

予定なし

6月

7日(土) 亀参まつり (白鳥福祉館)
 17日(火) ハビひか屋台 (光が丘福祉園)

電動自転車寄付

武蔵野児童学園

令和6年8月31日(土)から2日間にわたり「24時間テレビ」が放映されました。33回目を迎えたチャリティーマラソン。今年は芸人のやすこさんが自身の経験から「全国の児童養護施設に募金マラソン」と題して実施され、新たに『マラソン児童養護施設基金』も開設されました。学生時代に過ごした児童養護施設でお世話になった職員の方との感動的な再会や、やすこさんが施設を訪問して、子どもたちに「夢を



支援実践集表彰

去る4月17日、法人本部において令和5年度の支援実践集表彰式が行われました。受賞された事業所は左記の通りです。

【最優秀賞】リアン文京

「リアン de つながるプロジェクト」折原由美子 岡部悠介

【優秀賞】大泉町福祉園

「強度高度障害の状態にあるダウン症者への視覚的支援を用いたコミュニケーション支



幼児ユニット待望のチャイルドシート付自転車も♪

持つてもらいたい」と伝えている姿が放映され、ひたむきに走り続ける姿に心を動かされました。「マラソン児童養護施設基金」だけで総額5億円超の寄付金が集まり、全国の児童養護施設へ届けられました。当学園にも電動自転車4台と子ども用自転車5台が届けました。やすこさんの行動力と寄付金をお寄せいただいた皆さまに感謝し、頂いた自転車を買い物や通学などで大切にに使わせていただきます！ありがとうございます！

ショーケース 自主生産品紹介 旬の商品

桜あんのちよだんご

千代田区立障害者福祉センター

03・3291・0600



表彰を受けた受賞者の皆さん

援について」大橋悠一 田中菊男

【優秀賞】えみふる

「アートを通した地域交流と経済的支援の実践」間仁田薫 四方祐希

【優秀賞】さくら学園

「知的障害者の高齢化よりハビリテーション専門職のアプローチ」高城千恵



桜あんの団子

桜の名所千代田区。春は桜を彷彿させる、季節限定の桜あん団子を販売中！ちよだんごカフェはオープン1周年を迎えました。「ちよだんご」は団子「人、地域、社会」・串「繋げる」に見立て、団子カフェを通じた新たなコミュニケーションネットワークの役割を期待されています。

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する施設とグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町1-19-3

電話・FAX 042-626-9772